

(様式第1)

応募様式の書き方(例)と留意点

令和5年 月 日

アカデミア・コンソーシアムふくしま 御中

忘れずに記載

令和5年度 大学発イノベティブ・ベンチャー創出事業 大学発ベンチャー創出・育成プログラム 試作開発等支援 応募書類(応募様式)

記

■応募者名(研究者、チーム場合はチーム名と代表者名)

➡ 大学 太郎

■所属先(ACF加盟機関名もしくは登記されている法人名)

➡ ○○大学

■所属先の住所

➡ 〒***-**** 福島県***市***町123-4

■電話番号(所属先の研究室)

➡ 024*-***-****

■携帯電話番号(至急の連絡が付きやすいもの)

➡ 0*0-***-****

■メールアドレス(所属機関のドメインのもの)

➡ t.daigaku@****.***

■プロジェクト名

➡ ○△における■▼●を応用した◎◎の為の××試作開発

■類型選択

A類型:

量産及び事業化前の商品試作やサービス試行に、1件あたり200万円(税込)を上限として、2件以内を採択して研究委託する。

B類型:

プロトタイプ試作・試行等による実証の支援に、1件あたり100万円(税込)を上限として、7件以内を採択して研究委託する。

申請する類型にチェック☑を入れてください。⇒ ☑ A類型 ・ ☑ B類型

尚、A類型の応募申請については、B類型との併願申請を可とします。その際は両方に☑を入れてください。

A、B併願申請をされた場合、A類型で不採択になった方は、B類型として再度審査されます。

その際、仮にB類型として採択された場合の上限額は100万円に減額されます。

■経費必要額

➡ 2,153,000円(経費総額)

・1円単位まで記載してください。
・別紙2の必要経費内容合計と整合。

■申請額

➡ 2,000,000円(各類型の上限金額以内)

(例) A、B類型併願での申請例です

以上

(別紙1)

書き方(例)

令和5年度 大学発イノベティブ・ベンチャー創出事業
大学発ベンチャー創出・育成プログラム
試作開発等支援 応募書類

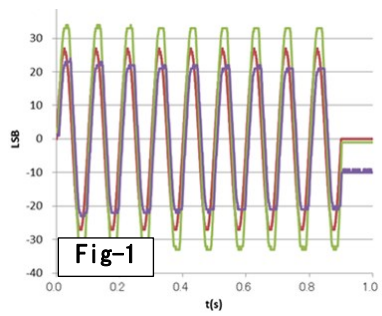
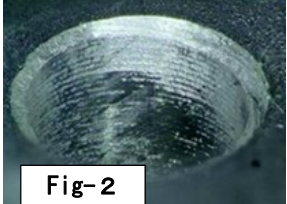
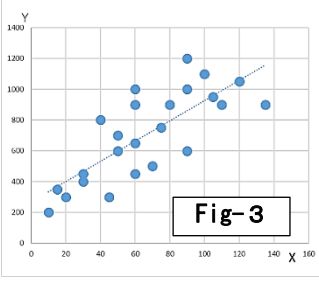
1. 応募内容

表紙に記載した内容と同一にする

①応募者概要 (※)の部分は該当する場合にのみ記入してください

Application form table with fields: プロジェクト名, プロジェクトの概要, 所属名, 応募者名, 所属先住所, 電話番号, メールアドレス, 試作開発の実施場所, 実施場所の住所, 実施場所名称, 電話番号, メールアドレス, 資本金, 設立日, 主要メンバー, 実施体制.

②これまでの成果、現状の問題点

<p>これまでの成果</p>	<p>【背景】 近年、*****において*****いる。その背景には*****があり*****が求められている。</p> <p>【これまでの取組み】 我々は*****への社会貢献をすべく*****の問題意識をもって*****を研究テーマに掲げ、*****の解決に向けて*****を中心に*****してきた。その成果としてこれまで取り組んできた具体的内容を以下に示す。</p> <p>1) △△成果 従来より***** *****性能は*****による特性を解析することにより*****と判断できることが分かっている。 下記 Fig-1 は yaw、pitch に関する G-F 特性を示したものである。*****であり、*****は*****である。このことは*****より*****は明白である。 その要因として考えられるのは*****と推測される。これを実証したのが*****の*****である。 つまり*****あり、その結果、*****の理論を実証することができたが更に、この原因究明をすべく我々は*****について*****してきた。</p>  <p>・技術開発の実績や、技術の事業化における PoC(概念実証)等の状況、これまでに行った事業等やその実績について、記載してください。 ・適宜、改行したり枠を広げたり、余白を詰めたり調整してください。</p>
<p>現状の問題点</p>	<p>2) □□の課題 しかしながら、以下のような新たな問題点が発覚した。それは*****による*****が影響しており、*****である。(Fig-2 参照) これは、***** *****のために***** *****であると推測できる。 この要因を解明すべく我々は***** *****ことにした。 Fig-3 は*****の特性に関する*****の相関を調べたものである。これによると、***** *****の相関があることがわかる。つまり、***** *****である。 したがって、*****を現状課題と捉え***** *****に着目し、更に開発を進めることにした。</p>   <p>できるだけ解りやすく、写真や図を用いて説明してください。 適宜、改行したり枠を広げたり、余白を詰めたり調整してください。</p>

③試作開発等の計画

〇〇に関しては*****あり、*****の要因分析も含め*****
 *****することにした。
 試作開発STEPについては下記の通りに計画した。

《試作開発スケジュール》

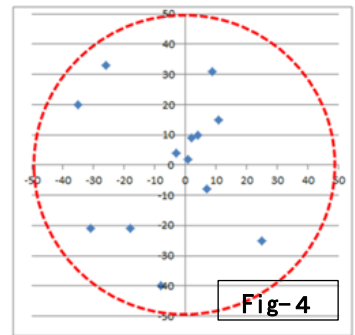
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	〇月
試作開発支援応募	●	→ 採択	● 契約書取り交し					
機械装置購入			発注 ●	→	納品			
実験検証-A	→	→	→	→				
実験検証-B				→	→	●		
実験検証-C						→	●	
実績報告書まとめ					→	→	● 報告	社会実装

▽▽性能に関する実験検証-Aについては既に着手中であり10月までには解析結果が出るものと思われる。契約後、機械装置①◆◆◆◆◆と“②※※※※※”を発注する。装置入手後は実験検証-Cの*****特性評価が可能になる。その間、***性能分析のために実験検証-Bを実施し、実験検証-Aの結果を踏まえ*****となる計画である。

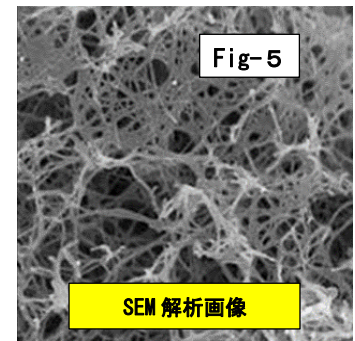
そのためには今回購入予定の機械装置“①◆◆◆◆◆”と“②※※※※※”及び、原材料の“※※※※※”が必要不可欠である。

《途中経過》

実験検証-Aとして既に進めており*****特性に関する途中経過が、Fig-4の分布特性である。このように現行の試験設備においては精度的な課題があり、*****
 *****実験の計測精度も含め、ばらつきの大いことがわかる。



また、現行の開発に使用している***材料のSEM解析結果では、Fig-5に示す通り試料としては*****できず、このまま開発を進めていくことは困難である。

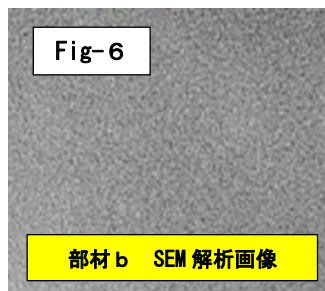


この結果から*****と言える。

したがって、この点も今後加工精度含めた解析改良を進め、実験検証-BのSTEPに進める必要がある。

そのためには*****いく必要性がある。

参考までに*****加工にて**処理を施した“部材b”のSEM解析画像をFig-6に示す。



実験検証はこれからであるが現状に比べ*****の***を***ことができ、*****と期待される。

この結果から、いよいよ本来の目的である***開発に向けて*****

*****である。

以上、これまでの経過を踏まえ上記スケジュールに従って開発を進め結論を導き出し、これまでにない全く新しい*****を社会実装に向けて取り組む計画である。

また更には、*****のエビデンスを明確にした上で知財関連を整備し、特許出願に繋がたいと考えている。

できるだけ解りやすく、写真や図を用いて説明してください。
 適宜、改行したり枠を広げたり、余白を詰めたり調整してください。

④事業化に向けた構想

(例)

【企業アプローチ・連携イメージ】

この技術シーズは、*****
に対して必ず貢献できるものと確信しており、
現在、関連企業としての、△△△(株)や、(株)□□□ 等との共同開発を模索中である。

概略の構想は以下を考えている。

- ① 企業アプローチ：R×年×月 頃
- ② 共同開発：R×年×月 頃
- ③ 設計試作：R×年×月 頃
- ④ 量産試作：R×年×月 頃
- ⑤ 商品化：R×年×月 頃

これら企業の協力を通じて、*****
を活用した新たなビジネス機会を創出する。
また、製品やサービスに*****
を組み込むことで、顧客への魅力的な
付加価値を提供することを目的とする。

更にはビジネスニーズと企業戦略に基づきターゲットとする市場規模の拡大と、企業のブランド
イメージを強化でき、競合他社との差別化、競争力強化が期待できるものと考えている。

- ・ご自身の技術シーズに基づいた社会実装、事業化に向けた企業との連携イメージ、概略のスケジュール構想を記載する。
- ・適宜、改行したり枠を広げたり、余白を詰めたり調整してください。

⑤ これまでに交付を受けた県や国等の補助金、又は学術支援、委託費等の実績説明
 (申請中の案件を含む)

該当しない場合は、最初の表の「事業名称及び事業概要」に欄に「該当なし」と記載してください。

事業名称及び事業概要	該当なし
事業主体	
実施期間	該当しなければ ⇒ 該当なし
補助金額・委託額	万円
テーマ名	
本事業との相違点	
事業成果・実績	(直近の事業化段階：) ※事業成果・実績期についても簡潔に記載

事業名称及び事業概要	
事業主体	
実施期間	
補助金額・委託額	万円
テーマ名	
本事業との相違点	
事業成果・実績	(直近の事業化段階：) ※事業成果・実績期についても簡潔に記載

事業名称及び事業概要	
事業主体	
実施期間	
補助金額・委託額	万円
テーマ名	
本事業との相違点	
事業成果・実績	(直近の事業化段階：) ※事業成果・実績期についても簡潔に記載

(応募書類作成にあたって)

- このWORD書式で作成するにあたり、必要に応じて改行して枠を広げたり、余白を詰めたり適宜調整頂いても結構です。
- 提出にあたってはPDF化してください。
- 別記や添付としたい場合は、該当する欄にその旨を記し、別添頂いても結構です。こちらについても上記PDFに含め、まとめて1ファイルとして提出ください。

(別紙 2)

令和5年度 大学発イノベティブ・ベンチャー創出事業
大学発ベンチャー創出・育成プログラム
試作開発等支援 応募書類

2. 経費内容

単位：円（税込）

経費区分	仕様・内容	個数	単位	単価	小計	仕入先又は見積徴取先 (※)
備品費	①◆◆◆◆◆◆◆◆	1	台	1,550,000	1,550,000	(株)□□製作所
	②※※※測定器	1	台	450,000	450,000	(有)○○工業所
原材料/消耗品費	△△材料(***)	500	gr	153,000	153,000	(有)△△物産
設備等借料						
外注費						
人件費						
旅費						
通信運搬費						
その他						

合計： 2,153,000 円（税込）

 (1枚目の経費必要額と整合)

(※) 採択後提出頂く見積書や実績報告書、会計報告書等の書類との整合性が求められます。
採択および研究委託契約後、変更が必要になった場合は、すぐに必ず ACF 事務局にご相談ください。あらためて確認させていただきます。